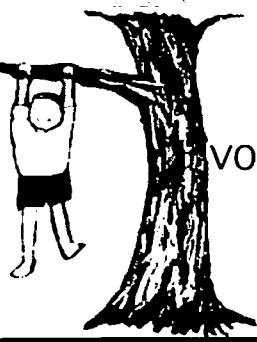


出会い
ふれあい
助け合い



VOL.221

サロンあべの

阿倍野防災センター見学



集合し、歩いて5分ほど離れた「あべのフォルサ」に向かいました。ここには区民プー

ルもあり地域の

人達に親しまれ

ています。防災セ

ンターはこの3

階にあります。

＊防災センタ

ーの概要

「阿倍野防災

センター」では、グループ単位

（1グループ12名前後）で見学コ

ースを回ります。全行程の見学

コースは100分。その他に80

分、60分など、見学者の希望に合

わせたコースがあり、（サロン・

あべの）は100分コースを選

びました。

この施設は1995年に発生

した「阪神・淡路大震災」以降、

関西でも予測されている「東南

海・南海地震」をはじめとした

大災害時における、市民の防災

意識を高めるために防災知識と

技術を誰もが学習できるように

＊災害体験

受付でグループ登録をすると

見学順番番号が告げられます。

待っている間に「防災学習ゾー

ン」で、モニター画面を見ながら

防災場面に応じた対応を二者択

一で選んだり、データを見たり

しながら、身近な災害について

学習しました。

順番が来ると案内嬢より参加者の氏名確認があり、各自にセンサー付の腕輪が渡され登録されます。それを地震災害体験ゾーン内の各体験室の出入り口にあるセンサーに当ててピッとチェックを入れます。

まず、最初の部屋は「バーチャル地震コーナー」。三方向から映像が映し出される大型映像と振動装置による地震発生の状況をいすに座って体感します。音も重低音で足元から体に伝わってくる感じがします。

次の部屋は「火災発生防止コーナー」。台所になっていて、火元になるガスや電気のスイッチなど危険性のあるものをすべて切り、二次災害を防ぎます。

この部屋を出ると煙が充満した曲がり角の多い、出口の見えない通路になっていて、炎の熱

気や煙の症状を見極めながら、

姿勢を低くして、すばやく行動・避難します。この「煙中体験・避難コーナー」を出ると、水を用いた訓練用消火器を使った「初期消火コーナー」です。台所のコンロから燃え上がる炎を、家庭用消火器を手順通り操作して、消

します。この時も一人ひとりチェックセンサーを通します。そこを出ると災害発生の街になっていて、そこで見た状況を携帯電話や公衆電話を使って119番に通報する「119番通報コーナー」。

「消火コーナー」では、地域に配備されている可搬式ポンプの操作方法を聞き、擬似放水体験・消火要領を教わりました。

「救出コーナー」では、タンスの下敷きになっている70歳くらいの男性を想定したマネキン人形をジャッキやボールを使って、

これは便利。

贈り物をするときや、本や写真を送るときなどにひとこと添えたい場合、便利なのがこの一筆箋です。

サロンの一筆箋

冊一〇〇枚綴 辛一五〇

参加者何人かで無事救出することが出来ました。

「応急救護コーナー」では、骨折や切り傷などの外傷処置の手法が身近にあるもので出来る事を学びました。週刊誌やダンボール、ビニール傘などが骨折の固定板になり、ネクタイやラップが包帯代わりに。また、スーパ

ーのビニール袋も切り方しだいで三角巾の変わりになると実習をして納得しました。

次は、地震災害に遭った街並

う」と記載してくれます。また、モニターで自分たちがどのような体感していたかを観ることもできました。

最後に、希望者だけでしたが、「震度7体験コーナー」で震度7の地震体験をしました。阪神・淡路大震災など過去に起きた地震を起震装置を使って再現、揺れ

とともに前壁に震度表の折れ線グラフが大きく現れ、外で見て

「サロン・あべの」紙で いろいろ教わります

台風一過ですが、各地に大きな爪痕を残し、心が痛みます。いつも紀伊半島は台風銀座と言われて、時期になると冷や冷やし

いる人もどのような震度の揺れかを体感する事ができました。

「阿倍野防災センター」見学の後、区民センターにもどり喫茶コーナーで休憩。参加者から感想を聞きました。

「本当の災害時に自分がどのように行動できるか判らないが、とても参考になった」

「各コーナーが、車いすでも体

そんな折、「サロン・あべの」20号を拝受いたしました。いつもありがとうございます。

「さわる生花」、初めて知りました。見事に生けられるのですね。「晴れのち晴れ」、中秋の名月を期待した日は丁度私のペースデイでした。台風21号接近の前日でした。

「不健全個人主義」も、驚きました。知らない社会を知ること

「災害の街並みが現実のように再現されていた」

「身の回りにあるもので、ちょっと工夫をすれば応急処置が出来る事が解った」

「一人ひとりが危機感を持ち、防災に関する関心を高める必要性を痛感しました」

自分たちの地域は自分たちで守る、という連帯感を強く持た

はありがたいです。日本の方がいいなと思いました。

「寄りみち」のカット、「飛蝗」ってこんな字を書くのですね。パッタをつかもうとしている子どもの様子に、「そうそう、我が家のオーシャンブルー(西洋朝顔)の大きな葉っぱを親子バツタが食べて穴だらけです。元気に飛んでいます。」

私のペースデイ記念に中秋の名月は望めなかつたのですが、元氣

なあきませんな」

災害がいつ起こるか判らないが、いざ起きた時に障害のある人は限られた行動しかとれない。自分たちで備えはしながらも、地域でお互いに助け合える関係が大切と感じた(サロン・あべの)10月の出会いでした。

参加者14名(山村貴司)

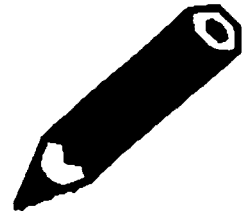
で誕生日を迎えることが出来ましたので(サロン・あべの)にカンバさせていただきます。

知らない事をいろいろと教えていただきありがとうございます。

台風もまだまだ油断が出来ません。くれぐれも「用心、ご自愛くださいませ。」

2004年10月22日

東 百合子



邦子、 ..ん歳の手習い。

重度障害者の自立生活

― 障害者の自立生活と公的介護保障 ―

岸田美智子さん（自立生活センターまいど代表）は、養護学校高等部卒業時の進路について、先生は、施設を勧めてくれたというのですが、美智子さんは施設に入らず、両親との同居を選んだと話してくれました。

介護の必要な障害者の生活形態は従来、施設や病院や家族との同居が主でした。しかし、日本における1960年代の脳性マ

ヒ者を中心とする自立生活運動やアメリカの自立生活運動は、障害者が施設を出てあるいは家族から離れて、他人の介護を受けながら生活する自立生活形態を生み出しました。このように、現在では、介護の必要な障害者は、施設、グループホーム、家族との同居、単独での自立生活など、多様な形態が考えられます。そのような多様な形態の中で、要介護障害者が自立生活をするには、介護保障が最も大切です。

日本では、家族との同居、施設以外の生活形態として、他人の介助を受けて単身で、あるいはグループホームで自立生活する障害者が1970年代から出てきました。そして、自立生活をする要介護障害者にとって欠かせない介助者は主に無償ボランティアでした。しかし、無償ボランティアに全面的に依存する自立生活は不安定なものでした。全身性障害者介護人派遣事業は、自立生活でより安定した介助を得て生活したいという障害者の要求からも整備されていきました。

大阪市では、全身性障害者介護人派遣事

はあとが、はろー！

頒布価500円（送料別）

業が、1986年に大阪市単費の制度として発足しました。この制度は、単身で、生活する全身性障害者（脳性マヒ・筋ジストロフィー・頸椎損傷者など）が、自ら確保した介助者を市に登録し、介助者が障害者を介助した時間に応じて、市は介助者にホームヘルパーと同じ単価を月ごとに支払う制度です。1986年発足当時の介護時間は時給650円×月12時間で7800円でした。そして介護受給当事者と大阪市との交渉で徐々に増えていき、1997年時点では、時給1400円×月158時間で214200円になりました。大阪市に見られるように、障害者の介護保障は、障害者の要求や運動により、全国90市区町村（98年2月現在）独自で実施されていた全身性介護人派遣事業でした。

2003年4月から障害者支援費制度が開始され、それまでの制度は廃止され、新

たな支援費制度のもとで介護費は支給されるようになりました。支援費制度については、岸田さんが「美智子のこんな話」(「サロシ・あへの」VOL.218)の中で、支援費制度の介護時間の上限問題や地域の障害者の実態について行政が十分に実態を把握していないことなどの問題を報告されています。また、現在、支援費制度の介護保険への統合問題で、障害者の自立生活を可能にする介護保険の縮小につながるのではないかと不安があります。岸田さんが指摘されているように、自己選択、自己決定を可能にする介護を保障する支援費制度の理念を達成していくためにも、当事者の声を上げていくことが、今、求められています。そして、制度変革に左右されることなく、行政との話し合いを含め、障害当事者が今まで築き上げてきたものを生かし、充実させていき、障害者の自立生活が一部の障害者だけではなく、多くの障害者が選択できる生活形態にしていくことが今後の課題だと思います。

(定藤邦子)

先般、私は2泊3日の予定でショートステイを利用した。場所は八尾市のA園である。

初日は午前11時頃にA園に到着した。早速、医務室で血圧と体温を計ってもらったがどちらも正常だった。そのあと持ち物の入念なチェックが行われた。

これらが終わると、2階の一番奥の部屋へ案内された。そこは二人部屋ですでに20歳ぐらいの青年が寝ころんでCDを聴いていた。私は案内してくれた職員と一緒に持ってきた物をそれぞれの場所へ置くことにした。

そうこうするうちにお昼近くになったので同室の青年と1階の食堂へ行った。すると数人の職員が食事の準備に追われていた。ほどなくして職員の合図で全員(20人程度)が食事をすることにした。その日の

昼食のメニューは、ざるそばとおにぎりともかんの缶詰だったが、私は少しも残さずにいただいた。

2日目は入浴の日である。私は洗い場で入浴専用の車いすに乗り換えると、職員が3人がかりで身体を洗ってくれた。湯舟は箱形になっていて、車いすが入ると、パタンと戸がしまる。しばらくすると、ぶくぶくと周りからお湯が沸き出してくる。私は5分程して湯舟から出たが、全身がほんのりピンク色に染まり、とても暖かかった。こんなお風呂なら何度

でも入りたいと思った。

ショートステイは初めてだったので、行くまでは少し不安だった。でもどの職員もよくお世話をしてくれたので、3日間とも楽しく過ごすことができ喜んでいる。

晴れのち晴れ 74

ショートステイ

稲垣恵雄



人の歴史、国の歴史

アメリカに住んで2カ月が過ぎた。アメリカの良いところ、日本の良いところを考
えるいい機会になっている。

アメリカの大統領選挙で二人の次期大統領候補者が長時間、討論する様子をテレビ



Mi

で見たが、さすがに世界の民主主義の旗手を自任するだけのことはあると思った。これほどの政治的で高度な舞台装置を日本が持てる口は、おそらく当分ないだろうとすら感じた。

一方、日本の良さも感じるのである。サービス業の人たちの客に対する丁寧さは、ほとんどアメリカでは期待できない。郵便制度もいいかげんなもので、貴重な郵便物が玄関の前で無造作に置かれてあることが何度もあった。

つまり、どちらの国にも良いところはある。しかし、どうしてここでは、それがそんなに良いのか、悪いのかと聞かれても、誰も答えることができないだろう。たとえば、日本人には礼儀正しい人が多いですねと、外国人に言われて、その理由を聞かれたところで何人の日本人がそれに答えられることか。

答えがあるとすれば、それは歴史にあると思う。ひとつの社会がいまのような様子になったのは、その長い歴史を通じてである。そして、その歴史を正確に知っている人は、一部の歴史家を除いてほとんど誰もいないはずだ。

同じことが人にも言えると思う。一人の人がどうしてそのようなことをするのか、どうしてそのように感じるのか、そのようなものなものを考え方をするのはなぜなのか、なぜ人を信じるのか、あるいは信じないのか、休日をもそのように過ごすのはなぜなのか、なぜ、そのことを幸せとするのか、あるいは不幸せと考えるのか、すべては、その人の育ってきた歴史に答えがある。そして、その歴史は多くの場合、その本人が知っているとは限らない。

たとえば私には幼い二人の子どもがいる。この子たちがいま体験していることは、大きくなればほとんど覚えていないだろう。しかし、この時期に体験したことが明日の体験につながる。楽しいことが続けば、その楽しいことが何だったのかは忘れてしまう

だろうが、世の中には楽しいことがいっぱいあると思い、その思いで次の日を迎えることができる。つまり〇歳で得た体験から、1歳の日々をどう送るかという姿勢が決まり、その1歳で得る体験が、さらに2歳の日々を迎える基礎になる。こうして2歳が3歳につながり、やがては生涯の色合いを決めていく。

そういう意味で、幼い子どもたちを抱く私の腕はこの子たちの歴史をつくる一角なのである。私の一つ一つの行為や言葉は幼い子どもたちの記憶には残らないだろうが、子どもたちの歴史には残るだろう。そしてその歴史を子どもたちが知る機会はほとんどないのである。

私もまた両親に、そして日本という社会に育てられ、自分の歴史のなかに私が忘れてしまった両親の行為や言葉、そして日本の社会の姿を残している。それにほとんど気づくこともなく、私は生きてきたし、これからは生きていくだろう。そして、その多くは私を経て、私の子どもたちに伝えられていくのである。

(知)

個々人の仕事はちゃんとしてはるんやけど...

アメリカ駐在の夫について来て、1月半ディーラーなので幸い丁寧な扱いをしても経った主婦です。サロン・あべの紙220号の「不便な個人主義」を拝見しました。自分も駐在員だったんだけど車を買うとき

私はまだ日が浅いので実感の大きさを痛感して自分が代行する仕事をしています。主人が最近しようかと転職したとか。言っていたことは思い当たりここシカゴでは日本人社会がなくなるとか。病院も銀行も日本人がい

実際に仕事をする中で、日本人に頼むような、頼み方をアメリカ人にするとぜんぜん仕事が進まないそうです。わかるだろうとあってそういうイメージが出来ていたんだ

うと思つて米人Aさんと米人Bさんそれぞれ頼んだら、ほんとなら、仕事の流れ上ふたりで連絡を取り合うところまで行くはずが、自分の仕事はここまで、というふうに線引きして米人Aさんと米人Bさんそれぞれ連絡もせず、お互い連絡待ちのまま。

アメリカ人に言うときは懇切丁寧に手順を最後まで説明して頼まないのだめだと学習したそうです。でも一歩中に入ると個々にぶつ切りにされた接点のない仕事ぶりがよくわかるのだ

私はまだそこまで行っていないんだなあ。ちなみに主人が車を買ったのは日本人の

上田千鶴(シカゴ)

赤松 昭

「谷間」に 「くだわり」続けて

6

「谷間」という言葉の使われ方(その2)

前回から「谷間」という言葉の使われ方の話をさせてもらっています。本来であれば、今、谷間にある方々のことをもつとお話すべきなのですが、私は昔、歴史を勉強していたことがあり、「物事の起源」には少々こだわりがあります。ですのでもう少し、こうした話をするをお許しください。

「社会の底辺」を指す谷間という言葉は、1960年代後半から次第にその意味合いを変化させていきます。例えば1967年、社会

党の枝村要作議員は、コロニーの運営をめぐる委員会質問の中で次のように発言しています。「福祉行政は厚生省が関係するが、雇用の関係については労働省が関係している。(中略)しかし、その間の谷間にある人たち是非常に不遇な目に合わされるとか言っております」。また、社会党の佐々木静子議員は1976年の参院法務委員会でのように言っています。「母子家庭は、子供さんが独立して、卒業したけれども、まだ老人福祉の対象にはならないという谷間の年齢で単身生活していらつしやる婦人というものが非常に多いわけである」。この二人の議員の発言からも分かる通り、「谷間」という言葉はこれまでの社会の底辺を指す言葉から、制度と制度の間に置き去りにされた状態を表す言葉へと変化していつているのです。

しかしこの言葉の意味の変化はこれに止まりません。公明党の古川雅司議員は1972年、衆院社会労働委員会で年金制度の不備をめぐって次のような質問をしています。「この国民年金制度に加入することのできない、したがって70歳に達するまでは全く恩恵に浴

さない、いわゆる年金の谷間に埋没している方々、これをいまどのように掌握していらつしやり、どう対処していかれるのか」。この問題は国会での論戦と共に、当時マスコミでも盛んに取り上げられています。そして、こうした言葉のやりとりの中で次第に「制度の谷間」という言葉はそれ自体で、「成熟社会へ向かう過程の中で生じた制度の不備と、それによって不利益を被る人が出現している。そしてそういった状態は許されるべきではなく、公的責任のもとにその状況は解消されなければならぬ」、といういわば道徳的な意味合いを持つまでに至るのです。では今、この「谷間」という言葉はどのような広がりを持って使われているのでしょうか。それについてはまた次回お話しします。

ありがとうございます。

カンパ、お茶・お菓子などのご寄贈ありがとうございます。ごさいました。

K・R、岩本温子、宇根山千恵子、玉置明美、東百合子、その他の方々。(敬称略)

美智子のこんな話

岸田美智子

「すみよし・あいえるマップ」ができました！

住吉区で障害者の皆さんのいろいろな生活相談に利用していただいている、自立生活センター「すみよし」の活動も今年で5年を越えました。

私たちの団体は、これまで「NPO法人ライフネットワーク」でしたが、この10月より「社会福祉法人あいえる協会」に生まれ変わりました。

活動内容は何も変わりませんが、今後は「社会福祉法人あいえる協会自立生活センター・まいど」となります。そして、社会福祉法人になった最初の取り組みとして、私たち障害者が本当に使いやすい社会資源マップを作りました。

今年の4月頃から半年間かけて、私たちメ

ンバーが総動員で実際に訪問して、アンケートや写真などを撮らせていただき、まとめたものがこの「あいえるマップ」です。

内容的には住吉区内の相談機関一覧、多事業実施法人（「社会福祉法人あいえる」のようなものです）、そして、作業所（身体・知的・精神）を含むなどの事業を紹介しています。

さらに、デイサービス、配食サービスなどの紹介やサークル活動の紹介なども掲載されています。

そして、支援費制度の利用で急激に増えたヘルパー派遣事業所、グループホームの紹介などをA4サイズで約140ページにまとめました。作業所の数は17カ所、ヘルパー派遣事業所は14カ所、サークル活動は14カ所などほとんど網羅されています。

障害者の皆さんがこの住吉区で何か生活に困った時、そして自立生活をはじめようとした時、この「あいえるマップ」を開いていただくと、きっと何かの支えになると思います

す。ぜひ、皆さんも一読ください。
1冊500円（送料別）で購入していただけます。希望される方は、すみよしまでご連絡ください。

○連絡先

自立生活センター・MY・DO「すみよし」
〒558-0002

大阪市住吉区长居西1-9-12キミハウス1階

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3210

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

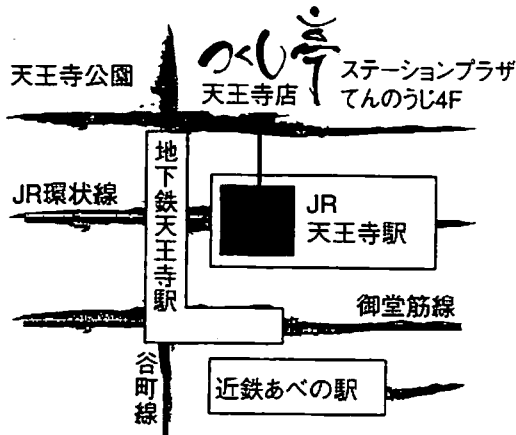
ほんの少しの
神に近い部分

700円

お知らせ

<サロン・あべの>12月の出会い

内容…昼食会-楽しかったこの1年-
 日時…12月4日(土)午後12時~
 集合時間…午前11時30分
 集合場所…JR天王寺駅北口
 場所…つくし亭
 (大阪市天王寺区悲田院町10-48
 ステーションプラザてんのうじ4階)
 TEL 06-6779-3955
 会費…2500円
 申し込み締切り…11月末日
 申し込み・問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



■実験劇場 公演のご案内

今年最後の
 ポボル伊佐の腹話術と
 Deen ツツイのマジックの
 不思議な一夜

*日時: 12月2日(木)
 19:00 Start
 18:30 Open
 *Ticket: ¥1200.
 *場所: ワッハ上方7階
 れっすんる一む
 (大阪府立上方演芸資料館)
 [大阪市中央区難波千日前
 12-7] TEL06-6631-0884
 ○お問い合わせ先: ポボルの一座
 TEL・FAX 072-279-0792
 090-1447-8012

ホームページが新しくなりました。
<http://www2.odn.ne.jp/~cdu84210>





SALOON

■「サロン淀川」12月の出会い

日 時：12月19日(日)午後1時30分～4時
 内 容：消費者問題出前講座とたこ焼きパーティー・マジックショー・ビンゴ大会
 ゲスト：安田順子氏(茨木市消費者センター)
 会 費：なし
 場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
 大阪市淀川区三国本町2-14-3
 問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎ 06-6394-2900
 E-mail : sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」12月の出会い

日 時：12月11日(土)午後1時30分～4時
 内 容：クリスマスパーティを楽しもう！
 場 所：西区在宅サービスセンター6階
 ボランティア・ビューロー室
 大阪市西区新町4-5-14 (西区役所隣)
 地下鉄＝西長堀駅4-A号出口からすぐ
 市バス＝地下鉄西長堀駅からすぐ
 ☎ 06-6539-8075
 会 費：なし
 問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■「サロン・ひらの」12月の出会い

日 時：12月13日(月)18時～
 内 容：忘年会
 会 費：3000円
 場 所：ごらく(大阪市平野区内)
 問い合わせ先：にこにこセンター
 ☎ 06-6795-2525

■「サロン・にしよど」12月の出会い

日 時：12月18日(土)1時30分～3時30分
 内 容：クラリネット四重奏とクリスマスの集い
 &ビンゴゲーム
 ゲスト：クラリネット四重奏団「モンブラン」
 (女性ばかりのクラリネット四重奏団が、
 アンコールに応じて再登場)

場 所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」
 参加費：なし
 問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
 ☎ 06-6494-0635
 中本 ☎ 090-9864-9678

■「サロン「アイ」12月の出会い

日 時：12月11日(土)午後1時30分～4時
 内 容：楽しいクリスマス会
 会 費：なし
 場 所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
 大阪市生野区勝山北3-13-20
 問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー) ☎ 06-6712-3101
 ○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
 出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
 ☎ 06-6757-8574

■「てくてくすみよし」12月の出会い

日 時：12月12日(日)
 集合＝午前11時30分JR天王寺駅東口
 内 容：阿倍野防災センター見学
 場 所：フォルサ3階
 (大阪市阿倍野区阿倍野筋3-13-23)
 会 費：未定
 申し込み・問い合わせ先：
 山本篤江 ☎ 06-6692-8411
 携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」12月の出会い

日 時：12月12日(日)午後1時30分～4時
 内 容：色で楽しみましょう ～博愛の園での活
 動紹介と参加者の自己紹介や感想など交えて両用紙
 や色鉛筆、クレパスを使って色を楽しむ～
 講 師：色とこころのネットワーク
 (特定非営利活動法人)
 会 費：100円
 場 所：鶴見会館2階
 大阪市鶴見区横堤5-5-51
 問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー) 田村 ☎ 06-6913-7070

■「サロンいたみ」12月の出会い

日 時：12月19日(日)午後2時～2時40分
 内 容：クリスマスコンサート
 場 所：西宮市・三好病院
 問い合わせ先：黒野 ☎ 072-781-3540

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で「サロン・あべの」紙第220号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 「サロン・あべの」紙は、第1号より第220号までそろっています。
- (b) 「サロン・あべの」十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠 1995・2・22 著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけつと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「動くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田 ☎06・6691・1028 まで。

寄りみち



江戸徳川幕府は慶安3年に「定火消^{じょうぼうけし}」、さらに、享保2年、将軍吉宗の治世に「大名火消^{だいめいぼうけし}」の制度をはじめ、少し遅れて「町火消^{まちぼうけし}」も組織化されたといわれています。「定火消」や「大名火消」は江戸城や武家屋敷のための消防をおこなったのに対し、「町火消」は町家・町内を守るというものでした。この「町火消」に居候していた「暴れん坊将軍」が「阿倍野防災センター」を見たらどう言うでしょう。(石)

<サロン・あべの>VOL. 221 発行:平成16(2004)年11月20日 定価¥100
 編集人:<サロン・あべの>運営委員会 表題:中西利香・筆 文中イラスト:石田美禰子
 事務局:〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座:サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷:セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>